

予定入院における円滑な病院内連携

保岡クリニック論田病院 榎本 友美（社会福祉士）

- 入退院支援部門が有効に稼働するように現状調査を行いアセスメントシートを作成し連携マニュアルを見直すことで入院治療の提供や退院に向けての支援がスムーズに行え、実施時間の短縮が可能になったとの報告であり組織をみなおすことの重要性をしめしている。
- 入院決定から入院に至る過程の円滑化を目指した活動報告である。いわゆるスタッフ間の連携に 焦点をあて、患者側からみた聞き取りの負担とスタッフからの聞き取りの重複を避け時間節約と情報 共有にスポットをあてて検討している。今まで、各部門がそれぞれ聞きとりをしていた行為を、 高率よく情報を、アセスメントシート作成、書類の見直し、連携マニュアル作成している。患者と各部門間の連携を深めた作業である。社会福祉士の業務がよく表れている。引く続き、退院支援にも同様な作業を望みたい。
- これから入院しようとしている方は体調が悪い状態であることが想定されることから、多部門担当者から同様の聞き取りをされることは多大な負担を強いていると考えられるため総括部門で情報を整理し、多職種で共有するシステムは負担軽減となり非常に有用だと考えられる。
- 入院時に入れ替わり立ち代わり違う職員が入ってきて、同じことを何度も聞くシーンはあります。またいくつもの計画書や同意書にもサインが必要です。患者さんの負担軽減という視点に立っていると同時に業務の効率化も合わせた非常に良い取り組みと感じます。同時に専門家が関わるメリットもあると思います。専門家の説明や視点は患者さんに安心を与え、踏み込んだ情報収集も可能になります。今回の取り組みではその内容も職種間で吟味されたところが素晴らしいと思います。
- 発表お疲れさまでした。入退院支援部門は患者家族との出入り口となり、コロナの影響でなかなか面会ができないご家族もまずは相談口になることもあると思います。そんな中での検討は素晴らしいと思いました。ただ、超高齢患者のご家族は高齢者ですので、高齢者に入り組んだ問診票を渡して簡潔に回答できるのかは心配になりました。